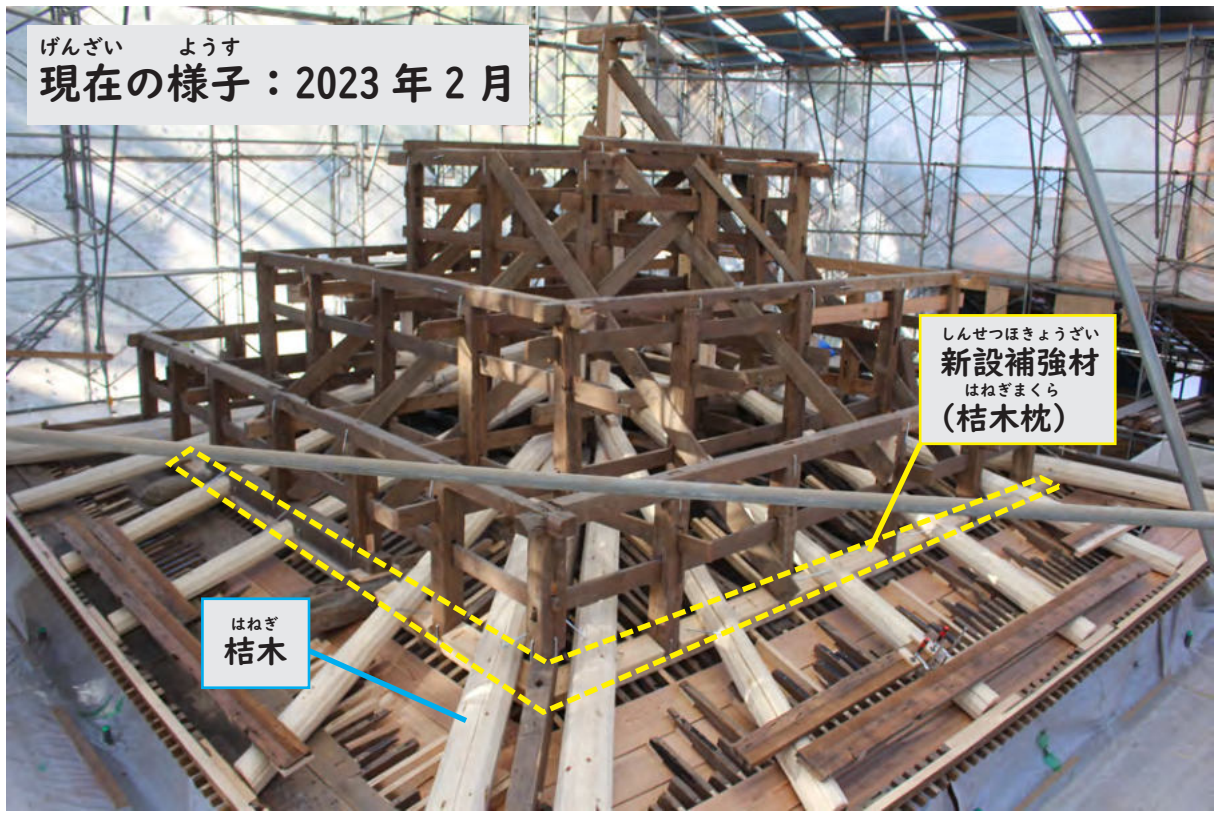
工事の現場より

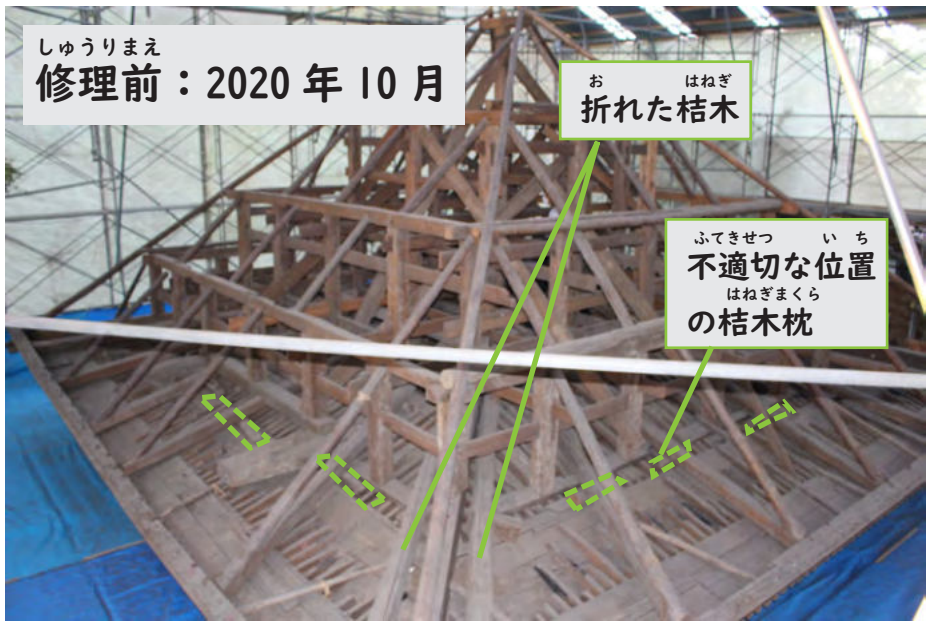
修理現場から 文化力 POWER OF CULTURE

今はこんな様子だよ。

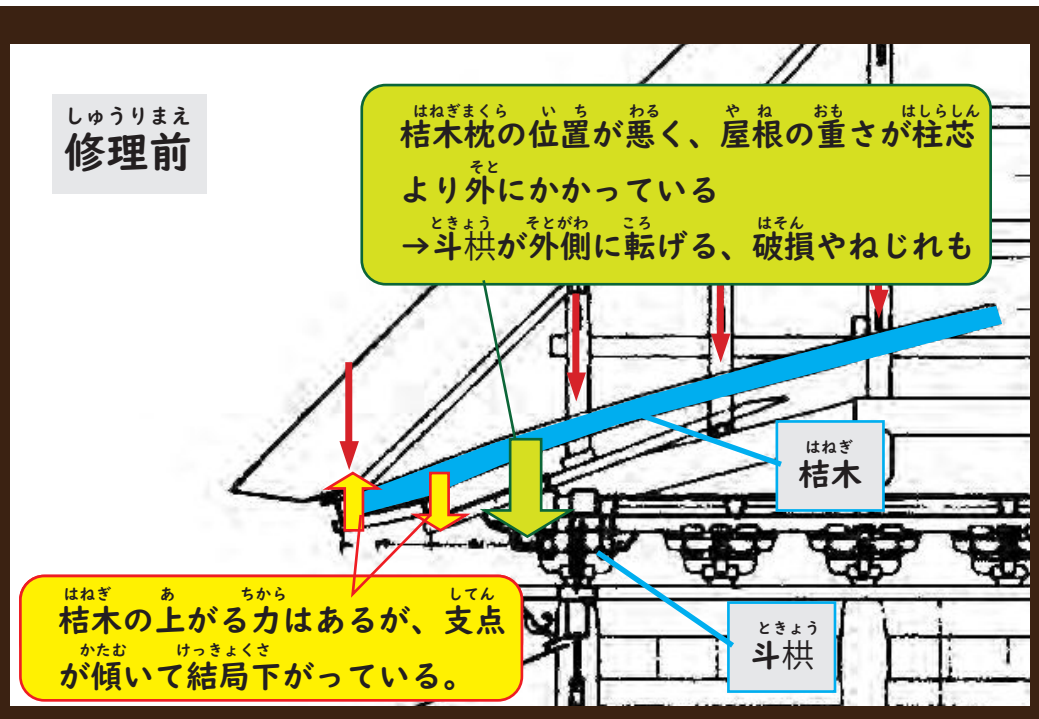
２月４週目

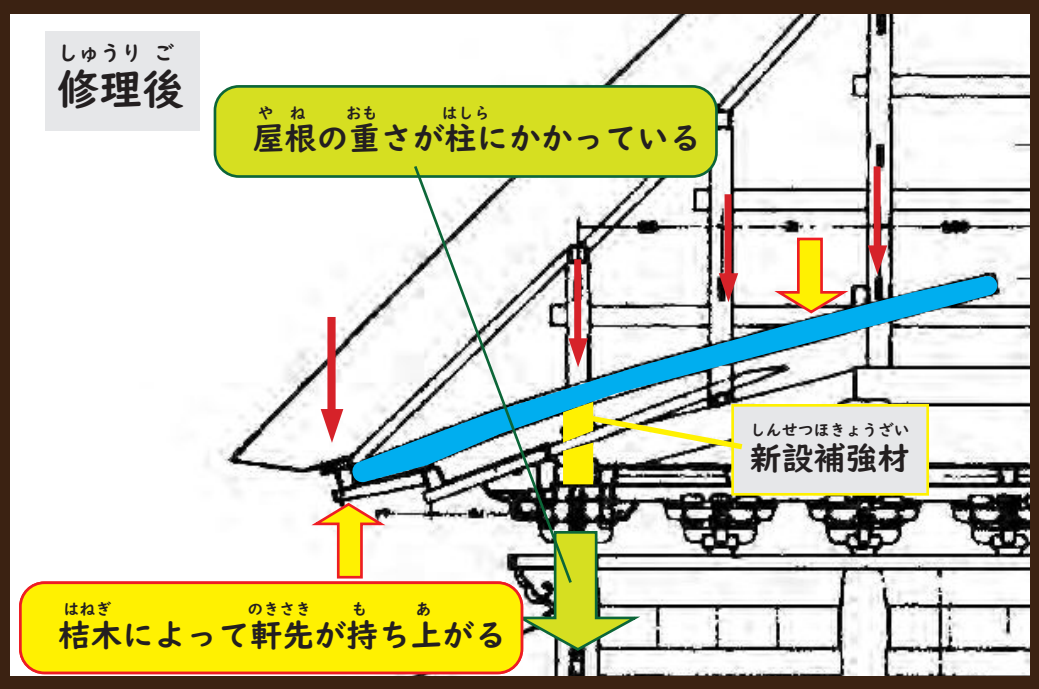
令和２年度より半解体修理を始めた旧東慶寺仏殿では、解体しながら傷みや劣化の具合を調べ、補修・補強方針が検討されました。現在その方針に基づいて作業が進められ、建物が元の形に戻るよう順次組立が行われています。基本的には元通りとなりますが、解体前の小屋組ではバランスが悪く屋根の軒先に負担がかかってしまう構造となっていた箇所がありました。そこに関しては荷重を適切にする補強を行ったため、古い形とは若干異なっています。





◀桔木は細く短いものは新しく太く長いものに取り替え、桔木枕も適切な位置に設けました。

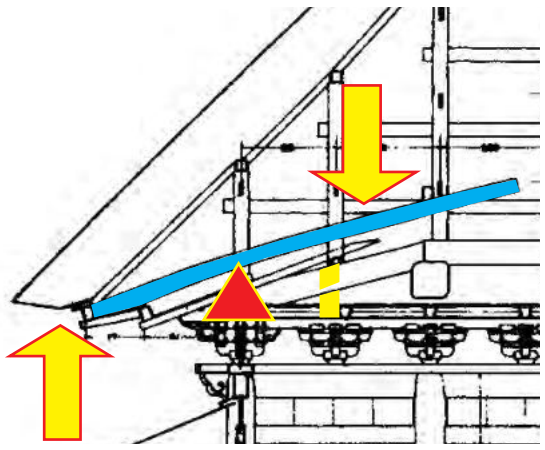
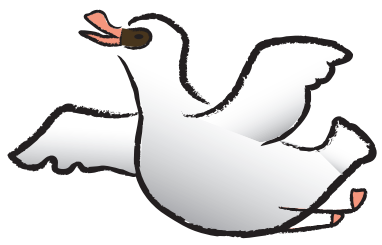




修理前は桔木枕の位置が不適切で、屋根の重さが柱芯より外側にかかってしまっていたため、軒先を支える斗栱が外側に転げたり、ねじれや割れが生じたりしてしまっていました。結果桔木としての機能以上の負担が大きく軒先が下がってしまっていました。

修理後は新設補強材＝適切な位置の桔木枕によって、屋根の重さがまっすぐ柱に伝わるようになり軒先への負担は軽減しました。桔木としては修理前より若干不利な構造になりましたが、新しく設けた桔木を太く長くすることで不利を補っています。

屋根に斜めに据えられた「桔木」はシーソーのようなもの。支点となるのは桔木枕、建物の中心側で上から屋根の重みを受けると、外側＝軒先が持ち上がります。テコの原理なので、修理前の方が支点より軒先側が短く実は桔木としては有利。ただし位置が悪く、あまり効果的ではありませんでした。



「桔木」は日本の伝統建築の一大発明。先人のすごい知恵、利用させていただきます！